

あすなと高岡

第7号



初春の夢



高岡市教育委員会

教育長 細呂木 六良

明けましておめでとうございます。

体育協会並びに加盟団体の皆様には、スポーツの振興、特に競技力の向上に多大のご尽力を賜っており深く感謝申し上げます。今年も、体育協会にとって、より充実した年となりますよう祈念申し上げます。

さて、私は新年にあたり、こんな夢を描いております。▼二十一世紀の高岡市は、市民の生活の中にスポーツ活動が定着し、新しいライフスタイルが築かれて活力に満ちあふれたまちである。市民の一人ひとりが、各自の体力や好みにあった生涯スポーツを楽しみ、健康で生きがい満ちた、しあわせな暮らしを営んでいる。

▼殊に、子ども達をみると、体格もいいが体力もすばらしく、共に全国平均をはるかに上まわっている。行動もきびきびと軽快で頼もしさを感じさせる少年少女達である。グループの活動をみても、みんな一つ家族の兄弟姉妹かと思うほど仲がよく、年長者は年少者の世話をしまことほほえましい雰囲気満ちている。スポーツ活動を通してルールを守り、協同・協調の精神が身についている。

▼また、スポーツクラブが大型化、総合化しており、クラブ員の数も多い。クラブ員は、体力・健康づくりを目

指す人、スポーツを楽しむ愛好者、日本のトップレベルを目指す人等いろいろな人達が混在している。クラブ代表の選手も、ジュニアチームからシニアチームまで揃っており、全国大会や国際大会に出場するとなれば、支援態勢もできており、みんな伸び伸びと戦って好成績をあげてくる。クラブ指導者の多くは、かつて、このクラブで育った優秀な選手であり、今は、クラブ員に教えることを楽しみに奉仕している。

以上、二十一世紀におけるスポーツ界の夢を述べましたが、よく考えてみると、これは決して手の届かぬ夢ではない、努力すれば成し得る希望のもてる夢だと思えます。体育協会の皆さんと力をあわせ、実現に向けて頑張りたいと念願しています。



第48回市民体育大会開会式 選手宣誓

〈プロフィール〉

東京教育大学体育学部卒。県公立学校教員、県教委体育課長、高岡工業高校長、県教委生涯学習室長などを歴任し、平成5年4月から県教委理事（全国高校総体・二〇〇〇年国体担当）を務め、平成7年4月から高岡市教育長。

県体講評

第四十八回県民体育大会は、富山市を主会場に県内各会場で三十八競技にわたり熱戦が繰り広げられました。

本市からも第二部（県民スポーツ・郡市対抗）の一般において、二十二競技三四九名。中学においては、十五競技三四〇名。また、第三部（健康・体力づくり）小・中学生・一般で十九競技九六二名が参加し、各競技にわたり健闘しました。

総合成績は、中学の部では惜しくも二位でしたが、一般の部においては、富山市・黒部市に続いて三位の不本意な成績で終わりました。昨年は初優勝を果たしましたが、如何にせん今回は入賞（一位二位）出来ない競技も多く、昨年に比べ二十点近く落ちこんでいます。来年度は高岡市が主会場であり、ぜひ地元で再度の優勝を果たしたいものです。

そのためにも、各競技団体では競技人口の増大と競技レベル向上に一層努力されることを期待するものです。

前田杯が 新調される

前田杯バレーボール・ソストテニス大会は今回で41回を数える伝統ある大会です。今年は都市間交流の一貫として初めて金沢市のチームが招待されました。又今までの杯にかえて現代的感覚のカップが高岡市より寄贈されて、大変盛り上がった記念すべき大会となりました。いままでの木杯は記念として展示する予定です。



第41回前田杯ソフトテニス大会開会式

加盟団体紹介 ⑫

高岡ラグビーフットボール協会

私達の協会は、競技体育だけでなく、社会体育、市民スポーツの側面を大切にしています。チームは幼稚園から小学校、高校、そして20代、30代、40代の社会人チームを擁しています。中学と大学については現在チーム編成の準備をしておるところです。

高校からは競技力向上が主眼ですが、ジュニアの部（幼稚園小学校）については、その前に真にラグビーの楽しさを知り、体を動かす喜びを知ってもらいたい。そしてラグビーの持つ精神を理解し共に闘うチームワークというものを身をもって体感してもらいます。

ジュニアのためのスキルはチーム毎（幼児・一、二、三、四、五、六年）にクオリティが高くスタッフの充実してる事は言うに及びません。又、自発的にのびのび楽しむスポーツを目指しているため、ジュニアには監督制はなく、全員コーチとして成長をサポートしています。オールド（40代）は、北陸三県大会、東海北陸交流会等対外試合も目白押しです。そして年代を超えた幼稚園から60代まで

全員が交流する「夏の大合宿」「冬の大納会」も協会活動を盛り上げます。

この様に幅広い年代の交流とブレザーやエンブレムの統一によって、さながらスポーツ先進国に見られる様な「ラグビーフットボール倶楽部」の感があります。



財高岡市体育協会 研修会

恒例となった研修会は昨年十二月三日(日)雨晴温泉の研修室において、加盟団体の役員・企業チームの代表など八十名あまり出席のもと盛会のうちに開催した。

今回は「二〇〇〇年とやま国体に向けて選手強化の取り組みについて」のテーマで、講師として県教育委員会の競技力向上対策室長の

大代忠男氏より講演をいただいた。福島国体秋季大会終了後通算で富山県が天皇杯十五位、皇后杯十七位と好成績をあげた。富山県では「二〇〇〇年とやま国体」に向けて平成七年度より県教育委員会内に競技力向上対策室が設置された。国体男女総合優勝の目標達成のための主な事業としては優秀選手育成・強化を図るため強化選手、中学生五百四名、高校生六百二十二名、成年五百七十二名(計千六百九十八名)や強化チームを指定し、合宿遠征優秀チームの招聘など、また指導体制の整備のため中央からの指導者の招聘(ス

ポーツアドバイザー、スポーツトレーナー等)、強化コーチの設置、科学的トレーニングの導入など競技力向上対策事業を年次計画に基づいて推進している。

国体での優勝を目指す二〇〇〇年は通過点であり、その後も強化事業によって蓄積された競技レベルが維持されなければならない。そのためには他県からの選手の導入にたよるのではなく本県選手を育成することが大切である。「育てながら勝つ」ことに大きな意義がある。以上が大代先生講演の要旨である。

そのことから高岡市においては県の方策に協力し、競技団体はひとりでも多く県の指定選手になるように努めることが高岡市の競技力向上に直接結びつくものと考えられる。

この会で狩野体育保健課長より当面の課題の中から二〇〇〇年国体の高岡市の準備室は遅くとも十月までに設置する。また新体育館建設は第七次ではなく第八次計画に盛り込むとの説明がなされた。

加盟団体紹介⑬

相撲連盟

高岡市体育協会へは、昭和27年2月の加盟であり、以来、今日まで相撲競技の普及発展に努めて参りました。

中でも、当連盟が主管している富山県青年相撲選手権大会は平成7年度で68回の開催を誇る県内アマチュアスポーツ大会最古の歴史を数える競技と確信している、その中でも11回の団体優勝の栄に輝く等、地元の声援に応えてきた。

毎年入賞はするものの昭和52年度大会の優勝を最後に低迷していることに着目し、平成7年度より小学校、中学校、高等学校の一貫した指導体制と強化を目的に春から今日まで高岡向陵高等学校相撲部と連携し、室内道場を借用しオールシーズン禪をつけての練習場を提供して戴けたことが特筆される。

その成果が徐々にではあるが現れてきたように思われる。富山県相撲選手権大会に於いて、小学校4年生、5年生の部で見事個人優勝を成し遂げた。

さらには、富山県中学校総合選手権大会で志貴野中学校が2位、

南星中学校が3位入賞した。

また、北信越中学校総合競技大会への出場権を得、志貴野中学校が3位入賞を果たした。

さらには、新人チームになってからは県選抜大会ではその成果を発揮し他チームを全く寄せつけず今後の精進次第では明年度の活躍が楽しみである。

一方青年層でも伏木海陸を核とした強化策が図られており二〇〇〇年国体では是非とも高岡市から全種目へのエントリーと競技役員の中核となるべきスタッフの養成と審判技術の向上を図りたい。



第4回 スポーツ医科学シンポジウム

開催日時 11月28日(火)

開催場所 高岡市役所8階会議室

テーマ 「ジュニア育成のための

の基本的トレーニング」

《講師》

◎山田 均(高岡市民病院整形外

科第一部長)

◎北村潔和(富山大学教育学部助

教授・運動生理学)

◎金久博昭(富山大学教育学部助

教授・運動生理学)

司 会

◎木村 勉(高岡西部中学校教頭)

《内容》

〔金久講師〕

(当県の冬の天候を考慮しての冬期トレーニングやシーズン中において最高潮に実力を発揮できるようなトレーニング方法について)

パワー的要素と敏捷的要素を抱き合わせたトレーニングをする場合、競技特有の動きを体が忘れないようにマシンの使って、ウエイトトレーニングの間に動きを組み入れ

たメニューが効果的である。中学生は体重負荷の筋肉トレーニング

の中で、自分の種目に応じた筋力

アップが必要である。機敏制、瞬

発力を養うのにマシントレーニン

グを組み入れて全身の強化をする

際には指導者のサポートのもと正

確に実施させる。

女子は中学二年から三年、男子

は中学三年から高校一年が筋肉が

もっとも発達する時であり、この

時期に基礎的トレーニングをしつ

かり実施するのが大切である。

しかしながら現在の教育システ

ムでは、もっとも技術・体力をの

ばす大切な時期に受験期を向かえ

せつかく蓄積した力を減退させて

いる。特に屈曲力は半年休むと低

下し高校生になっても回復しない。

小中高の一貫した指導システムの

確立が必要である。

〔北村講師〕

(技術的要素の優位性)

集中力、タイミング、決断、判

断、予測などの技術的要素を高め

れば自ずと体力的要素も高まる。

自己の意思で、自分の最大の力(集

中力)を出せるようにトレーニング

グの中で努める。

そのためには基本的技術を正確

に指導する。

タイミング、予測をいかに上手

に教えるかは指導者のキャラク

ターを問われることになる。指導

者の技術の正確な伝達には、その

裏付けが必要であり信頼関係が生

じなければならぬ。

他流試合を積極的に行いその中

からいい点を学ぶことが大切であ

る。水泳においても同じ集団の中

だけにいたのでは大幅な記録の伸

びは期待できない。技術的にも一

人だけでなく違った指導者に指導

を受けたら伸びる。

〔山田講師〕

(成長期におけるスポーツ障害)

障害に至る練習のやりすぎを低

学年の場合は指導者の側から見つ

けてやるのが大切である。

発育期の特徴として、骨の成長

に筋肉の伸びが遅れるため筋力が

弱く、骨がもろいために傷害がお

こりやすい。また身体的特徴とし

て体の柔らかい児童はスポーツバ
フォーマンスは優れているが外圧
に弱いし、また足の形(扁平足や
O脚など)のために障害が起こる
場合もある。

発育期の体の特性や個人的特徴
を考えて傷害にいたらないよう練
習の自身や組合せを検討する必要
がある。

〔質疑応答(一部)〕

・競技者が学生時代に身につけた
技術と、その後の指導者の指導

とずれがある場合は、良い部分

を認めつつ時間をかけて修正す

る必要がある。また、指導者が

選手を納得させるだけの技術理

論をもつことも必要である。

・ウエイトトレーニングを課す目

安としては、身長、スクワット

ジャンプが正確にできるか、

ジャンプの着地で体重を支えき

れているかがポイントとなる。

・屋外スポーツの冬の場のトレーニ

ングを廊下などで実施する場合

傷害の予防に衝撃吸収材などを

使用したシューズを使用するこ

とが望ましい。指導者は生徒の

身体的特徴を考慮して指導する

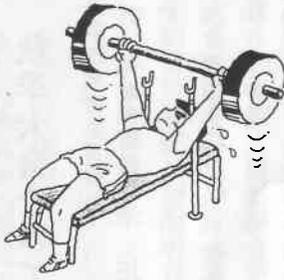
必要がある。

・成長痛を訴える場合は基本的には痛みがなくなったら練習を再開する。痛い部分を使わないトレーニングならよい。

・空手で小学生三、四年生が「体をしめる」(筋肉をしめる)練習は短時間であれば問題ないのではないか。(ストレッチニン、アイシングを徹底させる。)

・体力と技術を別けて考える傾向があるが体力と技術のどっちが優先するのかという質問には、発育期においては技術が優先する。(北村)

・技術とかけはなれた体力の強化は意味がなく、またトレーニングに目的をもたせることが大切という基本的な考え方が示された。(金久)



〈スポーツドクター・アドバイザー・第六回〉

ストレッチ体操の重要性について

高岡市民病院整形外科

山田 均

ストレッチ体操(以下ストレッチ)

はウォームアップ、クールダウンにかかせないものだということ

とは、指導者、選手とも概ね理解

しているようです。しかし、正し

くストレッチが行われているか

という点については疑問が残ります

といえますのは、とくに、あちこ

ちの競技会場で小中学生の選手の

準備運動をみておきますと、一見

ストレッチの姿勢はとっているも

ののしかるべき筋肉がのばされて

いないように思われます。また、

一連の体操の一部としてかけ声と

ともに反動をつけて簡単にすませ

てしまうものもあります。たいて

いの場合、この間は指導者が立ち

会っていないことが多く、こうし

たことも手抜きストレッチにな

なってしまふ一因かもしれませぬ。

さらに、試合ないし練習の終わり

にストレッチを行って光景をみることも極めて少ないように思われます。

ストレッチは単に筋肉を伸ばす

という効果だけでなく、筋肉の中

の細い血管の血流をよくする効果

もあります。しっかりストレッチ

を行うと、その直後に伸ばされた

部分がやや暖かく感じるのはその

ためです。ウォームアップとして

のストレッチは滑らかな体の動き

を獲得すること、これから使う筋

肉の意識を高めること、けがの予

防としての目的があり、また、ク

ールドウンにおいては、筋肉の中

の血流をよくすることにより、疲労

産物である、乳酸の排出を速やか

に行うことにあります。毎日のケ

アをいいかげんにしますと、徐々

に筋肉の弾力性が低下し、その結

果として膝や腰やアキレス腱の痛

みが生じてくることとなります。

以上のことを十分に理解したうえで、

ていねいに行うことが大切です。

筋肉のストレッチ感は本人に

しかわかりません。低学年の選手

にたいしてはストレッチ感を自覚

させるため、時々、指導者が補助

的に筋肉を伸ばしてやり、スト

レッチの程度を体験させてやるべ

きだと思えます。



ふくしま国体

秋季大会をみて

高岡市教育委員会

体育保健課 米 正隆

十月十四日、第50回国民体育大会秋季大会の開会式会場である、福島県宮あづま陸上競技場を皮切りとして、郡山市（サッカー競技）、保原町（ボクシング競技）、白河市（軟式野球・バドミントン競技）の各競技会場や練習会場、そして各市町村の実行委員会事務局を視察してきました。

視察にあたっては、競技・式典、宿泊・衛生、輸送・警備等に関して、自分の目で一つでも多くを見て、自分の目で一つでも多くを見て、役員の方々より一つでも多くの話を聞くと同時に、昨年の高校総体に比べどの面がどう違うかを調べたいと思っていました。現地では、駅の案内係・輸送係、会場の受付係・警備係等を担当しているのは、数多くの市民の協力員の方で、高校総体時の主役であった高校生の姿は競技会場外では、見かけることがありませんでした。そして、どの会場にいても、監督・選手、

応援・役員の人々の多さには驚かされました。また、その人々を輸送するためのバスの台数の多さ、そして開会式会場の駐車場が五キロ前から用意してあるのには、感心すると同時に驚かされ、高岡市の競技会場に置き換えた場合のこなどを思い浮べながら、前を通りすぎました。

今も、競技前の監督・選手の輝いた目が脳裏に残っておりませんが、この視察を通して得た貴重な体験、そして忙しい中に対応下さった実行委員会事務局の方々、そして多くの関係者との出会いを大切に、平成十二年に開催されます二〇〇〇年とやま国体成功に向け努力してまいりたいと思います。



福島国体激励

高岡市教育委員会・高岡市体育協会は十月十五日より二泊三日の日程で福島県のレスリング・バドミントン・ソフトテニスなどの国体会場を訪れ激励した。

高岡市は二十二競技に監督・選手六十名が出場し、スポーツの栄光と郷土の名誉のため各競技に健闘した。

特にバドミントン競技では優勝こそ逃したもののトナミ運輸を中心とした成年男子・高岡女子高校を中心とした少年女子で決勝進出をはたし、成年女子が三位と地元福島を向こうにまわして大いに会場を沸かせ活躍した。

本県の今秋季大会での成績は天皇杯十四位八七六・五点、皇后杯十五位一一六・五点で大健闘であった。特にジュニア層の活躍が目ざましく、二〇〇〇年国体を睨んだジュニア選手強化事業が実を結びつつあることが証明された。各種関係団体には今回の好成績を一過性のものに終わらせまいようより一層の工夫、努力が期待される。

スポーツあんど

陸上95東京国際女子マラソン兼アトラクタ五輪代表選考会で劇的なシーンが展開された。先頭集団の三人の選手が折り重なるように倒れ、一人の靴がはじけとんだアクシデント、がその中の一人がトップの選手を追いつめゴール、あとの二人も四位五位に入った。

ゴールで監督の胸で泣く浅利純子選手の姿がさわやかだった。どんなスポーツでも、メンタルな面で勝者敗者の区別が付きまます。競技の指導上、力を抜け、リラックスして、とかよく使われます。しかし力を抜くということが如何に難しいことか、実際にはなかなかできません。頭で判るといふことと、できることとは別物です。冷静に、緊張しないで、と思いがながら競技や試合にのぞんだことがあると思いますが、頭で判つていても実行できません。理解するといふことと、できることとの間に大きな落差があります。育てながら勝つ選手を育てることが目標ではあるけれど、「理屈だけは達者だが、

何もできないではないか」と云われないようになりたいものです。



平成7年度役員研修会

第3回 理事会開催

とき 平成7年12月3日
ところ 雨晴温泉会議室

【審議事項】

(1) 競技力向上推進委員会について

二〇〇〇年とやま国体に向けて

本市の競技力向上をめざし具体的

方策を講じるため設置する。

【委員】

- 塩谷 孝一 (体協副会長)
- 吉崎 克文 (競技団体・学識経験)

- 木村 勉 (高岡西部中学校教頭)

- 福田 宗志 (競技団体)
- 福尾 博志 (学識経験)

- 宮崎 外行 (体協指導普及部長)
- 清水 芳隆 (高岡女子高校教頭)

- 中村 光臣 (タカギセイコー)
- 福田 温亘 (宮越工藝)

- 吉見 浩二 (高岡法科大学講師)
- 野上 克裕 (高岡伏木小学校教諭)

- 宇於崎 弘 (伏木海陸運送)
- 宮崎 恒 (立山アルミニウム)

- 野上 克裕 (高岡伏木小学校教諭)

- 堺 三徳 (トナミ運輸)
- 北山 清志 (三協アルミニウム)

- 野上 克裕 (高岡伏木小学校教諭)

- 川淵 義弘 (中体連)
- 山本喜久夫 (小学校)

- 野上 克裕 (高岡伏木小学校教諭)

- 川田 盛稔 (高体連)

- 野上 克裕 (高岡伏木小学校教諭)

- 二〇〇〇年とやま国体について

- 野上 克裕 (高岡伏木小学校教諭)

- 市の競技力向上をめざして、医学の見地より専門的知識を有する者が科学的トレーニング法や合理的指導法を提言するため設置する。

- 野上 克裕 (高岡伏木小学校教諭)

- 【委員】

- 野上 克裕 (高岡伏木小学校教諭)

- 山田 均 (高岡市民病院第一整形外科部長)

- 野上 克裕 (高岡伏木小学校教諭)

- 吉崎 克文 (吉崎病院長)

- 野上 克裕 (高岡伏木小学校教諭)

- 北村 潔和 (富山大学教育学部)

- 野上 克裕 (高岡伏木小学校教諭)

- 市体育施設の概要、編集後記

- 野上 克裕 (高岡伏木小学校教諭)

賛助会員

ア タ ッ ク	(株) スカイボール	中 川 太 三
石 田 建 設	杉 林 佐 武 郎	な か や す 酒 販 (株)
市 堰 整 形 外 科	鈴 木 建 設 工 業 (株)	(株) 長 田 印 刷
(株) 井 上 誠 昌 堂	第 一 物 産 (株)	西 村 工 業 (株)
(有) 扇 建 興	(株) 太 陽 樹 脂	日 東 企 画 開 発 (株)
大 橋 工 業 (株)	高 尾 宗 嗣	日 本 海 産 業 (株)
(株) 織 田 幸 銅 器	高 岡 北 口 太 郎	畑 山 ア ル ミ 合 金 (株)
加 越 能 鉄 道 (株)	高 岡 中 央 ラ イ オ ン ス ク ラ ブ	(株) 原 田 染 織
金 森 産 業 (株)	高 岡 志 貴 野 ラ イ オ ン ス ク ラ ブ	(株) 広 上 製 作 所
金 田 賢 二 公 認 会 計 士 事 務 所	高 岡 古 城 ラ イ オ ン ス ク ラ ブ	伏 木 海 陸 運 送 (株)
(株) 神 島 リ ビ ン グ	高 岡 西 野 ラ イ オ ン ス ク ラ ブ	富 士 薬 品 工 業 (株) 高 岡 工 場
(株) 北 二 鉄 工	高 岡 信 用 金 庫	(株) フ タ カ
北 日 工 業 (株)	高 岡 ス ポ ー ツ 店 会	(有) フ レ ッ ク ス
キ タ ム ラ 機 械 (株)	高 岡 中 央 ラ イ オ ン ス ク ラ ブ	北 星 ア ル マ イ ト 協 同 組 合
和 洋 酒 店	高 岡 西 口 太 郎	(株) 北 陸 銀 行 高 岡 支 店
清 和 酒 店	高 岡 万 葉 ロ タ リ ー ク ラ ブ	北 陸 油 送 (株)
国 沢 ア ル ミ 合 金 (株)	高 岡 南 西 ラ イ オ ン ス ク ラ ブ	北 陸 流 通 (株)
(株) ク レ ア ・ コ ー ポ レ ー シ ョ ン	高 岡 ロ タ リ ー ク ラ ブ	(株) 北 國 銀 行 高 岡 支 店
晃 琳	高 木 總 合 病 院	前 田 鉄 工 所
五 歩 一 工 業 (株)	高 田 接 骨 院	松 島 工 業 (株)
三 協 ア ル ミ ニ ウ ム 工 業 (株)	(株) 竹 中 製 作 所	松 田 産 業 運 輸 (有)
三 高 建 鉄 (株) 高 岡 営 業 所	立 山 ア ル ミ ニ ウ ム 工 業 (株)	松 原 粉 末 薬 品 (有)
三 尚 運 輸 (株)	立 山 合 金 工 業 (株)	丸 八 織 維 工 業 (株)
塩 谷 建 設 (株)	谷 口 忠 敏	丸 福 石 油 産 業 (株)
塩 谷 建 設 (株) 塩 交 会	中 越 工 業 (株) 能 町 工 場	宮 越 工 芸 (株)
(株) 塩 谷 商 事 (株)	東 垂 合 成 (株) 高 岡 工 場	(株) 宮 下 組
(株) 島 宇 商 店	ト ナ ミ 運 輸 (株)	(株) 山 田 商 会
嶋 田 公 認 会 計 士 事 務 所	(株) 富 山 銀 行	山 本 建 設 (株)
(有) 嶋 津 堂	富 山 ト ヲ タ 自 動 車 (株) 高 岡 営 業 所	米 島 義 三
	豊 本 弘	ワ シ ア ル ミ (株)

驚北機工具店

(寄付)

北陸電力(株)高岡営業所

(1月4日現在)

賛助会費の納入は

2月末までお願いし

ます。



行事予定

1月4日 新春武道稽古始め(武道館他)

1月28日 市民体育大会スキー競技(大山町栗葉野スキー場)

4月中旬 理事会

4月下旬 評議員会(総会)

4月下旬 前田杯 バレーボール・ソフトテニス大会(中学の部)

7月中旬 第49回高岡市民総合体育大会 基準日7月13日・14日

8月10~12日 富山県民体育大会(高岡市主会場)

8月23~25日 北信越国民体育大会(長野県)

9月4日~11日 国民体育大会(広島県)

10月12日~17日 国民体育大会(広島県)

秋季大会(広島県)

お知らせ

平成9年に発足50周年を迎える

高岡市体育協会は記念誌の発行を

予定しております。スポーツのワン

シーンをとった写真を広く一般の

方から募集し、思い出のアルバムと

いうページを作りたいと企画して

おります。高岡市のスポーツに関す

る秘蔵の写真をお持ちの方は高岡

市体育協会事務局までご連絡下さ

い。

・高岡市民体育大会スキー競技の

開催について

開催期日 1月28日(日)

開催場所 栗葉野スキー場(大山町)

種 別 小学生・中学生・一般

種 目 大回転

編集後記

去る十月十日に「第五十五回国民

体育大会開催内定記念とやまスポー

ツフェスティバル」が県民会館にお

いて盛大におこなわれました。

7号は「二〇〇〇年とやま国体」

に向けてということで、福島国体と

医科学シンポジウムを特集した編集

となっております。

本誌を読まれて「とやま国体がち

かづいたな」というムードの高まり

を感じていただければ幸いです。